

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	上野 和幸
視察地	富山市		
調査事項	コンパクトシティのまちづくりについて		
視察年月日	令和5年10月24日		
視察内容	<p>富山市は、昭和20年8月1日の大空襲によって市街地の99.5%が焼失。戦災復興事業により、広い道路と大きな街区で構成される街並みを形成した。</p> <p>1 コンパクトシティの街づくりについて</p> <p>(1) 課題意識</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「車に依存した暮らしとまちの拡大」による課題は、「人口減少と超高齢化」によりさらに深刻化していく</li><li>・2002年頃の市長の問題意識：「多くの地方都市と同じく、車での生活に特化し、居住地密度が薄っぺらで、車がないと自由に移動できない街では、30年後に生き残れない」</li><li>・都市のかたちの大胆な変革が必要。「公共交通を活性化させ、市街地拡散を抑制しながら人口減少の影響を最小限にしていく」</li></ul> <p>(2) 街づくりの基本方針</p> <p>鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を実現する。</p> <p>2 所見</p> <p>富山市の取組には、人口減少と超高齢化社会を見据えた、コンパクトな街づくりが見事に実現されており、大変参考となった。2002年、市長のリーダー性と早い判断により、現状の公共交通をグレードアップし、その沿線に居住地を構え、車社会の限界に歯止めをかける具体性のある都市計画は、同様の課題を抱える本市にとって大きな示唆となった。</p> <p>富山市は、鉄道とバス路線を接続することにより、市民の移動をスムーズにし、車がなくても徒歩と公共交通の利用により、中心市街地に行くことが出来る持続可能な街づくりの実現が進められている。</p> <p>本市も人口減少・超高齢化・車社会等、同様の課題を抱えている。富山市との違いは、鉄道がない点だが、旭川市の足はバス路線であるから、早急に民間との話し合いを進め、公共交通の見直しをすべきである。また、実現性のある都市計画の作成と市民に対する説明と理解を求めるべきと思う。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	上野 和幸
視察地	金沢市		
調査事項	コミュニティバスを活用した地域公共交通について		
視察年月日	令和5年10月25日		
視察内容	<p>1 金沢ふらっとバス運行の背景</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・藩政期に形作られた不整形な細街路や坂道が多く、市内中心部にも公共交通空白（不便）地域が存在し、交通渋滞や駐車場の問題に伴う、都心へのアクセスの悪化と中心市街地の空洞化が生じた。また、高齢化社会・福祉社会の進展があった。</li></ul> <p>2 ふらっとバスの内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和2年度、「持続可能な金沢ふらっとバスの在り方検討会」提言に沿い、令和3年4月1日から新たなダイヤ及びルートで運航を開始した。</li><li>・【利用対象者】高齢者及び主婦層が主なターゲット。日常的な買い物・所用、繁華街への買い物、通院、公共施設・福祉施設等への外出を想定</li><li>・細街路を運行する循環一方通行。左回り：定時性・安定感。1周40分 公共空白地域を解消。バス停から200メートル以上離れたら空白地域。中心市街地や交通結節点を通るルートを設定。</li><li>・利便性の高い20分ヘッドで運行。土日休まず運行。大人100円、子ども50円。</li></ul> <p>3 所感</p> <p>金沢市のふらっとバスは、小型のノンステップバスで乗りやすく、低料金である。また、20分に1便の運行と市民にとって利用しやすい公共交通となっている。また、公共交通空白地域を200メートルとし、高齢者が無理なく歩ける設定をしている。市民ファーストの姿勢を貫いている点は、素晴らしいと感じた。また、民間バス会社との協定により、バスの路線の確保や通学、通勤と被らない時間帯の設定など配慮が感じられる。</p> <p>しかし、金沢市の年間の運行負担が1億円を超えるなど、課題も抱えている。</p> <p>旭川市においても、公共交通の課題は多くあり、運転手不足により私の住んでいる地域も2時間に1便と、運行数が減少し大変不便を感じている。金沢市のように、低料金で、運行便数も多くなれば、活用する市民も多くなり、車に頼らない街づくりが進むと思われる。</p> <p>旭川市の公共交通への支援の仕方は中途半端であり、民間バス会社にとっても市民にとっても継続性のない対応に感じる。持続可能な都市づくりを考えるなら、高齢化や人口減少、環境問題、高齢者の運転免許返還などに寄与する公共交通について、市民とともに考え直す時が来ていると感じた。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	総務常任委員会	委員名	上野 和幸
視察地	生駒市		
調査事項	契約の電子化について		
視察年月日	令和5年10月26日		
視察内容	<p>1 クラウドを活用した電子契約について</p> <p>視察の初めに、生駒市契約課職員から「クラウドを活用した電子契約について」ホームページ上にある資料による説明があった。デジタルに弱い私にもわかりやすい内容であり、生駒市の市民や事業者に対する思いやりを感じた。</p> <p>2 実際の運用状況について</p> <p>令和4年1月に規則改正を行い電子契約が行える状態にして、令和4年2月より電子契約を開始した。生駒市R5年度利用数累計：1,094件。全国120自治体の中で契約累計数5番。</p> <p>3 電子化導入により気づいた点</p> <p>紙の契約から電子契約に変えると、検索や職員間の共有がしやすく業務の効率化はもちろん、印紙代や郵送費、印刷代、保管スペースなどの削減、重要情報の紛失が防止できるなど数多くのメリットがある。また、電子契約システムを導入すれば、契約の見える化や権限管理の徹底など、コンプライアンス強化にもつながる。</p> <p>4 所感</p> <p>私の一番苦手な分野の視察であったが、冒頭、資料を使って丁寧に説明を頂き、少々仕組みが理解できた。</p> <p>今後、旭川市も新庁舎になりデジタル化が進み、生駒市同様に電子契約をはじめとするデジタル化が進んでいくと思う。デジタル化が進み、業務内容の簡素化や作業スピードが上がり、紙の節約、保管の仕方も変化していくと思う。</p> <p>半面、検証の仕方や、確認の仕方が煩雑になり大きなトラブルにつながることも考えられる。</p> <p>また、高齢者社会において、デジタル化の波に乗れない高齢者のための対応も併せて考えていくべきとも感じた。</p> <p>3市の視察を終えて、新たな課題意識を持つことが出来て、大変有意義な視察となった。また、他の会派の議員と行動を共にすることで大いに刺激を受けた。今後の旭川市のために、市民のために一層研鑽を積み、議員としての責務に励んでいきたい。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること